



結局真木よう子が好きなのね、「問題のあるレストラン」

今回のドラマは粒ぞろいだなという印象のスタートでしたが、やっぱり最後まで見たのは数本に限られてしまいました。

まずは・・・今クールで一番楽しみにしていた「問題のあるレストラン」。どこぞかのエッセイで視聴率がイマイチ、セクハラ描写が重過ぎるといった散々な批評をされていましたが、ワタシは日々の仕事がハードでないせいかすごく楽しく観てました。

ストーリー的には、もう単純明快「男対女」の仕事を介しての闘いというわけで、勇ましい女たちが男たちを敵対視して、勇ましく挑んでいくストーリーなのかと思いきや、そこはさすが、熟練脚本家の坂元裕二によるオリジナルストーリー。ちゃんと女性の可愛い部分、男の魅力的な部分も描いていたなという印象です。

問題のある、と銘打っているだけあってそれぞれに問題を抱えた女が、レストランを通して、真木よう子演じる田中たまこを通して、自分と向き合うようになり心を開いて行くのだけれど、途中から男を相手どってセクハラ裁判を起こすというストーリーも寄り添ってきて、最後までどうなるのかなと引きつけられました。最後を彩る、きゃりぱみゅ主題歌も良かったです(最初のほう、いろんな見せ方してたから毎回変化するのかと楽しみにしていたけど最後はPVみたいになってました。でもそれも良かったです!)

田中たまこはある意味スーパーウーマンで、接客に対する心遣いや前向きでポジティブな考えは憧れではあるのだけれど、好きな男性とはうまくいかなかったり、軌道に乗り始めたレストランがあるトラブルでうまくいなくなるなど、全てがスーパーになりきれなかったところに、すごく共感出来ました。あんまりうまく行き過ぎると、引いちゃう。

一方、女が勇まし過ぎて男がやられ過ぎるとさすがに気持ちが追いつかないのだけれど、双方に「弱ったな」という状況を作ることで、えげつなくならないことに成功していました。

でも、女たちを応援する気持ちに水を差さない程度に、男たちの身勝手さもちゃんと描き切る、そのバランスが絶妙。要するに、気持ち良くやっつけられることは実は一番難しいのかなと思います。

さらにこういう物語では、大抵どこかに恋愛成就が必須であると思うのに、まあ脇では幸せ満開の部分はあったものの(セクハラで訴えたお友達)、肝心の主人公が好きな人と良きライバルとしていい関係を維持していったこと、なぜそうなったのかを語るシーンには新しさも少し。ちょいちょい田中たまこのセリフには「？」のときもあったものの、全体的には良かったな。

観ている他の方にちょっと不思議がられたこともあったけれど、毎回号泣しちゃってました、結局。

こういうのを見るといつも、仕事に真剣になれるっていいことなんだな～としみじみ感じる。田中たまこにはなれないけど、そのまわりの人たちにはちょっとなってみたいな～。頭よくない

けど、恋愛で花開くと思いきや結局うまくいかなかった頭でっかちのGMである二階堂ふみさんの喪服ちゃんが一番好きだったな。あ、でも恋多き女YOUさん演じる烏森さんも素敵!!実は東大出身の弁護士って、なんて恰好良さだ!

最後はちょっとスペシャル続編もありそうな終わり方ではあったけど、あるといいな～続編。

最終回がいつもと同じ一時間っていうのも良い。散々連続してきて、最後2時間とかちょっと興ざめしてしまう・・・ならばもう一回やってくれよ～と思っちゃう。しかも「コレは1時間で良かっただろう!」的な無意味な引き延ばしとか冷めるー!

何だかんだ言って、今期一番好きだったオハナシ。やっぱりオリジナルっていいね!

ちょい失速「〇〇妻」

続いて、遊川和彦脚本の「〇〇妻」。これもオリジナルストーリーでしょうか。

「家政婦のミタ」でウルトラヒットを飛ばした遊川さん脚本。ミステリアスで何を考えているかわからない妻である柴咲コウと、熱くて正義感が強い夫、久保田正純を東山紀之で描き、妻の秘密が解き明かされたときに、人気キャストであり自身も問題を抱えていた正純がどう対処していくのかを描いていました。

ただ、このミステリアスな部分はストーリーのかなり前半の部分で打ち明けられ、正純に執着し身も心も捧げる献身的な妻の「なぜ」は早くも解き明かされます。

恐らく、ここからがこの物語の本筋になっていくべきものだったかと思うのですが、キャストという地位を守りたいが、妻を愛している気持ちもあり苦悩する正純の姿があまりにもクド過ぎて、途中ダレ気味。

確かに衝撃の秘密を打ち明けられたときには、あそこまで、いやあれ以上に戸惑ってグダグダになるものかもしれないけれど、途中からなぜか柴咲コウまでウジウジし始めて、もう早く吹っ切れよ!と飲みにも誘って諭したいような気分。

もしかしてまるで舞台かのような東山紀之の演技が、少々大袈裟過ぎたのも要因の1つかもしれないのだけれど、いったいお前らはどうしたいんだ〜と叫びたい衝動にかられることしばしば。そしてまさかの最後は、ごろごろ階段落ちの、頭打ちの、意識朦朧の息引きとりの・・・うむ、ぎゅっと最後まとめ過ぎなのでは？

「家政婦のミタ」では「承知しました」が肝のセリフで、今回はそれに当たるのが「違うと思うけど」だったのかな。(妻の行動に夫が「お前は〜か!」と冗談混じりに言うと妻から真面目にこう返される)あんまり跳ねなかったのは、貫禄不足なのか最後まで押し切らなかったせいなのか。

遊川さんは、ミステリアスな女が献身的に男を支える、その男は家庭に問題がありそれを引きずっている、というような設定が好きなのでしょうか。男って何もかも投げ打って尽くすとか、秘密のある女みたいなのがいいのかしらん。

結局「〇〇」は前半で語られる「契約妻」のことだったのかなと思いきや、製作サイドからはいろんな意味があるという含みのある回答が出されています。それにしても、ちょっと深みが足りなかったかな。

そこまで想像力をかき立てられるような物語でなかったのは残念。

1つ書き加えると、やんちゃで自由奔放な母親だった黒木瞳が不良でロックで良かった。でも最後のほうは何だかいいママ過ぎちゃって、長年のわだかまりがあったはずの柴咲コウまでうっとり「お母さん!」なんて言い出しちゃって、ちょっと都合が良過ぎたかな。

唯一気を吐いていたのが、夫に対する懺悔の気持ちを抱えるオドオドした主婦から一転、いざ夫が亡くなってしまうと開き直りかのようにのびのびと言いたいことを言い出し、しまいには強気一点張りに豹変した、正純のお母さん。予想を裏切るキャラクターで良かったです。

でも・・・子供三人作るも、夫を最後まで愛せないと苦悩する女性。あまりピンと来なかったけど、そういうことで苦しんで、誰にも打ち明けられず、夫の最期に後悔でむせび泣く・・・なんていう人がいるのかなあ。

感情移入が最後まで難しかったのが、失速要因の1つでした。俳優陣は実力派が多くて良かったんだけどな～。

箸休め、失速じゃなく完全停止しちゃった編

今回もスタートダッシュはそれなりだったものの、途中挫折、いやいや録画したまままだ諦めてないのよドラマなど生まれてしまいました。

まず、まわりでは泣けると話題だった「流星ワゴン」。なぜだろう？1話目の最後10分間が自宅の録画機能の不具合で撮れてなかったという事情も含みつつではありましたが、2話目が見たいかと言えそうでもなく、結局のところがつつり西島秀俊さんファンではない、ということに終始するのだろうか。

しかも香川照之とのコンビで、最後はコメディ要素も存分に感じ取ってしまった「MOZU」カップルだったこともあるのかな。

経過を漏れ聞いても、あまり興味引かれなかったな。

草なぎくんの演技に少々疑問を感じてしまった「銭の戦争」。木村文乃は上手いのにー！
ドタバタコメディがどうしても好きになれない、「残念な夫」。倉科カナ好きなのにー！

そして今まだぐずぐずと録画を取ってある「ウロボロス」。これ今期一番視聴率いいんですよね？そりゃイケメン2人ですもん。広末涼子も好きだし、いろんな意味で面白いのに、途中からどうしても見れなくなってしまって、結局あと5話くらい残っているのではないか・・・以前だったらとっくに諦めてますが、見た人からは「とりあえず見たらどうだろうか」とご提案頂いたので、しばらく温めます。

そして深キョンと亀梨くんのラブドラマ「セカンドラブ」。恋も2度目ならあ〜と少々乙女チックといたしますか、ロマンス暴走気味でしたが、案外ハマリそう・・・と思いつつ、結局ハマらなかつた。これって年齢の問題？それとも胸キュン度が低くなってるのかしらん、嫌だわ〜。

ということで、箸休めの番外編でした。

BSプレミアムとWOWOWものから。

さらりと、BSプレミアムの「だから荒野」とWOWOWでここ何本か見た中で一番好きだった「硝子の葦」のことを書きます。

まず「だから荒野」は、桐野夏生さん原作のドラマで、子供のため、夫のため日々主婦として尽くしてきた妻が、ある日突然自分というものがわからなくなり旅に出るというオハナシでした。息子2人は自分を無視するようになり、夫は夫で勝手にしている。こういう傾向のドラマって一昔前にたびたび登場して、今回もそんな現実逃避話なのだろうと思ってましたが、舞台が長崎ということで気になって見ちゃいました。

長崎はたびたび訪れていた街で、風景も方言も懐かしくて、半ばドラマの内容はそっちのけで楽しめました。でも原爆の話を、現代の家族のあり方、街のあり方を絡めてうまく描かれていて、原作はどうなのかなと気になるほど。慎ましい主婦と思いきや、最後の最後では思い切りのいい快活な主婦を鈴木京香がハマリ役で演じていたし、勝手な夫である杉本哲太も良かった。

また長崎行きたいな・・・小説やドラマの1つの役割でもある、舞台になっている街に行きたいという気持ちにさせるということ。魅力的に映ると効果絶大なんですよね。

そして、wowowのドラマは最終回に失速することが多くて、いつもハラハラしちゃうのですが、最後の最後まで魅せられたのが「硝子の葦」。「ホテルローヤル」で直木賞を受賞した桜木紫乃さんの同名小説を映像化したもの。「しあわせのパン」などを撮られた三島有紀子監督だからなのか、映画のような画面と艶のある場面展開で、一気に惹き付けられました。

何と言っても、人から愛されることを知らずに育ち、いつも乾いた目をしながら殻に閉じこもっている節子を相武紗季が貫禄で演じているのが秀逸。元気な役柄から脱皮しつつあるのか、最近ではただ元気で健康的な女子というイメージから離れた役もやることが多いように思うのですが、今回はさらにベッドシーンや冷静に人を観察する怖い役どころがハマっています。

そして、ラストシーンは映画監督ならではの素晴らしい演出。よくぞ、やってくれたな。よくぞ、探してくれたな。このセリフに尽きます。

もし「一応録画したけどどうしようかな」と迷っていらっしゃる方がいたら、迷わず見て欲しいな～。途中、ちょっと人間不信になりそうなほどに残酷な気持ちに惑わされる瞬間があるものの、全体的にブルーのトーンが被せられたような、妖艶で美しく、一方で残酷で哀しいお話でした。

wowowは見応えのあるテーマを取り扱うのでたびたびチェックするのですが、今後も演出や監督選別に冒険するといったことをやってくれると嬉しいですね。園子温監督とかやってくれないかな～。主演は二階堂ふみさん・・・と言いたいところですがどこかで観たような感じになっちゃうか。

じゃあ真木よう子さんなんかいいんじゃない？完全に好みですけど。

相手役は・・・窪田正孝さんとか？あ、賀来賢人さんは？って完全にフロム「Nのために」だった。そしたら小出恵介さんもぜひ相手役オーディションに参戦させてあげてほしい。

王道の10回ドラマもいいですけど、ぎゅっと凝縮した5話くらいのもたまにはいい。今後も期待。

食わず嫌いはダメね「デート」

今回、初めての試み。一話目をほぼ見ずして、物語半ばから参戦するというパターン。もうご存知の方もいるかもしれませんが、ワタシはドタバタコメディがちと苦手分野なのです。

恋愛にしても、刑事モノにしても「いや、ドタバタされても・・・」と困惑してしまい、コメディ色強過ぎるとこれまた引いてしまう。いや、コントは別。お笑いも大好き!喜劇も好き・・・でもドタバタコメディはダメなの。ドタバタしちゃって、周りに迷惑かけて、でもワタシは平気〜ワタシなら許される〜と唄うような主人公に全く心が動かないんです(そんなドラマあるのか?)。

ということで、初回数分だけ見て「やっぱり無理」という烙印を押したままシカトしていた月9ドラマ「デート」。恋愛不適合者同士が、「結婚はしたい」という目標のもと、出逢い、デートをし、お互いの利害の折り合うところで結婚の契約を交わしていくというストーリー。まあ最初から主人公の杏と長谷川博己がいろいろあって、何やかやと迷惑かけて、最終的に好き合って結婚するってパターンでしょ?と高をくくっており、初回に流行を勘違いした(とおぼしき?)杏の変てこりんなオシャレがすでにドタバタの様相を呈していて、すっかり遠のいていました。

ただ、ストーリー半ばあたりで友人が「毎回楽しみにしている!」とオススメしてくれ、同時期ぐらいにトーク番組でドラマについて語る長谷川さんを見たこともあり、「まあ途中からでも充分ついていけるでしょ」と一話だけのつもりで見たら・・・結果ハマりました。

オンデマンド配信で過去を振り返るほどにはハマってないのですが、途中の一度が一度にならず結局そこから最終回まで見てしまいました。

何ていうのだろう。重厚な作品が基本的には好みなのですが、逆に気楽に見られるようなドラマは重宝するのでつつい進んでしまうんですね〜。からりと笑えるものとか、好きな女優さんを見るのが楽しみとか、何でもいいんですが、難しく考えることなんかない、頭からっぽにして見られるドラマっていうのは貴重です。

ただ、あまりにも内容がないものや、主人公がムカつくほどに能天気というのは逆にイライラが加速してダメなのですが、そこは古沢良太脚本。冒頭にその日のクライマックスを触りだけ見せ、そこに行き着くまでのお話が今から始まるぞ〜とわくわく感を煽ってきます。コレは上手い演出ですね。時にはストレートに、時には変化球で、その日のゴールをみんなが目指す。

なんか清々しい、そしてただただ笑えたオトナのコメディでした。

「リーガル・ハイ」を思わせる、マシンガントーク風セリフ。舞台上鍛えた長谷川さんのややオーバーなリアクションが妙にハマってました。いそうだなあ、ああいう引きこもり!

ただ、ワタシは高等遊民の妻にはなりたくないけど、高等遊民にはなりたくないかな・・・でも結局

凡人だからなりきれないのだろう。そこがもう高等ではないのであった・・・

杏ちゃんの上目遣いアヒル口も最高でしたし、恋愛を無駄と思う男女の滑稽なほどの真面目さに和まされるという不思議なドラマ。今後も触りだけで判断せずに、ちょっとでも気になったら見てみようと思う！

物議かもし出し過ぎだろう・・・「相棒」

今回一番の問題作と言っても過言ではないだろう「相棒」。まあ今クールというよりはその前から新シーズンが始まり、恒例の半年作戦で初回、正月、最終回で2時間ずつがつつりと重厚な作品を作り上げることはご存知とは思いますが、今回はとにかく最終回が物議かもしすぎだろうってほど、衝撃の回となりました。

まあシリーズ半ばから、現在の相棒である成宮くんが卒業するということ(アイドルグループみたい、脱退とか卒業とか)は明かされていたので、興味のほとんどは「どうやって相棒でなくなるのか」ということに終始してました。

ファンが考える全てのことを裏切りたいと思っていたのではないですか？制作側の方!!!!(小さく叫ぼう)。

まずは成宮くん演じるカイトくんのCAの恋人の悦子さんが実は重い病気だということが、残り数話を数える段階で発覚。

もしや、腕のいい医者に見せるからとかで、海外へ行ってしまう？とかまさかまさかの悦子さん突然亡くなってしまい、失意のカイトは思い出の地を巡る旅に出ってしまうのだった、ちゃんちゃんみたくワガママバージョンも考えていたものの、その頭上を遥か超えたストーリーで、呆気ない幕切れとなりました。

もう何だろう。

確かにサプライズするときって、内緒であることと、気づかれないことが一番の要因だと思うのですが、それにしても内緒にし過ぎだろう！前触れ無さ過ぎるのも、いささか取ってつけ感が漂うってものです。

きっとこの手の話は、ツイッターやFacebookで散々やっていると思うのですが、とにかく唐突感が半端なかったし、悦子さんが病気という前振りも、もしやファンの想像をかく乱するため？といった釈然としない気持ちが胸に溜まりました。なんか悦子さん・・・可哀想。

いや、ストーリー自体は毎度のことながらよく出来ていますし、面白かったのだけれど・・・ううむ解せない。いつもならば、相当思わせぶりにしておいて、実は・・・という隠れ真実がどんでん返しのように発覚するのがパターンなのに、それを期待させる演出をしておいて実はどんでん返しが無いというどんでん返し。

もうこれあれでしょ？今回の相棒成宮くんはもう今後は出てこない前提ですよ？それともレクター博士のように刑務所から事件解決したりして。いろんな人とこの終わり方について話してしまったけれど、そのこと自体がもう製作者側の思うつぼだよという結論となり、妙に納得しました。

そして、ここからが本題ですよ。(今までののは?)

気になるのは次の相棒!いったい誰?

女じゃないか説(仲間由紀恵など)が割と有力なのでしょうか。ただし、寺脇さんの薫ちゃん相棒も良かったから、体育会系でもいいんじゃない?いや、演技下手なのはいただけないから、体育会系の演技派求む!

あまり健康的過ぎず、クセもひどくなく、度胸のある人。やっぱり相棒は男の人がいいのかなあ。

最近初期のほうの「相棒」を夕方の再放送で見ることがありますが、昔の右京さんは今のようによく一目置かれている存在ではなく、ただ閑職に追いやられた鼻つまみ者で周りの反応もやや強気。確かに事件解決に尽力するのですが、何も報われず、ただそんなことに一切構うことなく冷静に物事を見つめている、という雰囲気を出されていて、あの米沢さんですら半信半疑、捜査員からはハエを追い払うみたいに現場から閉め出される右京さんの姿が印象的なんです。演技も最近のほうはやや感情豊か。昔のほうは何を考えているのかわからない部分が多くて、ミステリアスな印象かな。

その頃カムバック!と思うほどコアなファンでも、昔を懐かしむわけでもないのですが、ここらで1つ右京さんのプライベートが一気に暴露されちゃう事件とか、右京さんをも苦しめる永遠のライバルが出現する・・・など、違う意味での別の右京像を構築するというのはいかがでしょうか。

絶対ヒーローになるとか、近しい人が犯罪犯しちゃうとか、はたまた恋愛するとか、そういうのは要らないんです(あくまでも個人の感想です)。右京さんはあくまでも、これまでの刑事像から外れた類いまれな存在であって欲しい。

さて、今から次のシリーズの幕開けが楽しみ・・・無期限の停職処分になった彼がどうカムバックしてくるのか。

LULUの勝手にドラマ談義 2～2015・冬2～

<http://p.booklog.jp/book/96783>

著者：LULU

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/luludairy/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/96783>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/96783>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ